

絵：向雲太郎



夢あふれる ポーランド

『ポーランドって、どこですか?』
場所も知らない土地へ行く事になった。東ヨーロッパで最大の「マルタフェスティバル・ポズナ」からお声が掛かったのである。

日本から飛行機で13時間。制作、照明スタッフと共に現場へと向かう。リハーサルやインタビューをこなし、ハプニングもあつたが無事に本番を迎えた。2回公演は満員御礼、拍手喝采、評判も上々であり、正直、上手く行き過ぎて恐ろしいくらいだ。改めて沢山の人に感謝したいと思う。



←美しいポズナンの町並み。



インタビューに答える川村美紀子(右)

帰りは、アウシユビツツ・ビルケナウ強制収容所へ行き、想像以上の景色に呆然とする。行ってみなければ分からない。人はなぜ、そこまでして生きるのか、終わらない問いを幾度となく繰り返し、考えてゆく。充実した旅となった。

ドキドキ! 10日間の旅

かわむらみまこ

速報

2013.8.12(月)

掲載情報

未来回路 5.0
ポエム「きせつの旅人」掲載

未来路 mirai_kairo



お買い求めは Amazon.co.jp で検索

ヲタクに怒られる

アンダーグラウンド系の事務所でエキストラをしている。人体改造マニアやSM嬢、モデルなど、パンチの効いた人々が集う。

その日は、某国民的アイドルグループのミュージックビデオ撮影だった。抽選で通ったヲタクも参加しており、撮影が始まるとヲタクは熱狂的に盛り上がる。あまり心躍らなかつた私達は、仲間を持ち上げて胴上げを始めた。担がれた仲間は、大玉転がしのようになんどんヲタク達の頭上へと流されて行く。あーあ、潰れるな、そう思った瞬間、シャツをズボンに入れたヲタクが叫ぶ。『危ない!』

人が本気で怒る様子は、どうしてこんなにも滑稽なのだろうか。こちらは大爆笑に包まれ、同時に「怒られた!」という歓喜に満ち溢れる。怒られるのが私達の仕事であり、いつまでも、大人に怒ってもらえる存在でありたいと願う。

福井・広島へ

知らない人の結婚式で、余興をする事になった。福井県に向かう新幹線、新郎のお兄さんと打合せし、現場へ向かう。広々とした豪華な式場で、リハーサルをし、パフォーマンスを終えた。

翌日、頂いたギャラで広島へ行く事にした。広島にある「鞆の津ミュージアム」という美術館で、死刑囚の描いた絵が展示されているらしい。福山の駅を降り、バスに揺られて30分、気持ちよい海沿いに到着し美術館へ向かう。林眞須美、原正志など、名だたる犯罪者たちの描いた絵をうつろな気持ちで眺める。喫茶店で一息、せっかくなので市内も観光してみようと思ひ、広島在住のフアンの人に連絡を取る。

『初めまして。』広島駅に着くと、30代の爽やかな男性が待っていた。彼は、動画サイト YouTube で私の事を知ったという。『あの、広島の面白いところに連れてって下さい。』

早速バイクの後に乗り、宮島へ。フェリーに乗る、カモメが飛んでいる。有名であるう鳥居をみて、海を眺める。美しい景色をまぶたに焼き付け、帰りは府中焼を食べさせてくれる。

いやはや、持つべきものはファンである。

話すと、色々繋がり盛上がる。

『この後、飲みなおさない?』とてもエレガントで素敵なお客なのだが、何かがおかしい。『アンタ、胸、入れてんの?』同じゲイだと思われているようだった。すみません私、女なんです、そう答えると一転、

男女の境目

『男じゃないの?!』愕然とした表情で叫ぶ。てっきり男とみなされ、口説かれてしまったようだ。もしかすると、人間も男女逆転してしまったあとは、カタツムリのように両性具有になって、海に溶けて無くなってしまいかもしれない。

ニューシングル「ラヴソング!」リリース



2012年夏、幻と噂された神楽坂 die-pratze 閉館ラストの公演「すてきなひとりぼっち」。また同時発売の1stアルバム「たれながCD」は完売御礼、大盛況ののちに幕を閉じた。

あれから1年、川村美紀子が満を持して2ndアルバムをリリースする。その名は、「ラヴソング!」。シンプルかつダークなテイストに、甘めのスパイスを効かせた濃厚な1枚に仕上がっている。11曲収録、500円。

今週の一言

(ありがたいけど) くだらないね

好きになっちゃったかも、、、夏の夜、満天の星空のもとで年下の男の子に囁かれる。内心の動揺を必死に隠しながら、「(ありがたいけど) くだらないね。」と、笑う。乱暴で失礼な言い方に聞こえるが、相手も自分も傷が浅くてすむ。